

す。災害を無くすことはできませんが、社会の中で信頼関係を育み、住人同士が互いを支え合えるようになれば、災害に対する向き合い方も変わってきます。そこに、政府や自治体の災害対策や対応のための制度が加わることで、より強靱な社会が作れるはずですよ」

ジョセフさんの指導教官で、途上国の環境問題が専門のトマス・ジョーンズ教授は、「彼は研究に必要な基礎と、強い情熱を持っています。フィリピンの地方部における、草の根活動を通じて災害へ



大学では、日本人学生と交流する機会も。言葉は妨げにならなかったという

の対応力向上というテーマは、実務的にも学問的にも重要です。予算の割り振りが少ない地方で、人を中心に据えた能力開発に注目した点で、独創的でした」と、ジョセフさんの研究を高く評価している。

ジョセフさんの日本留学を支えたのは、日本が提供する人材育成奨学計画（JDS）だ。「これまで短期研修で日本を訪れるチャンスはありましたが、諸般の事情で参加できませんでした。しかし、JDSのおかげで、2年間の修士課程を通して、しっかり日本で勉



環境マネジメントを学ぶため、自然公園財団を訪問。こうした経験を通して人脈を作ることも、後々の協力につながる

強することができて満足です」と語るジョセフさん。明治大学公共政策大学院を留学先に選んだのは、災害対策や地方行政など、ジョセフさんが学びたい分野の授業を提供していたからだ。かつて明治大学に留学した先輩たちのアドバイスも参考にしたという。

**学生と教授の信頼関係
思い出胸に故郷を支える**

JDSは2000年度から15年度までの16年間で、アジアやアフリカの14カ国から延べ3434人の留学生を日本の大学院に受け入れてきた。対象となっているのは公務員など、将来、地域や国のリーダーになることが見込まれる若手のホープたちだ。行政、公共政策、経済、法律など、各国の重点分野や開発課題と関連のある分野から、国ごとに重点分野を選んで候補者が選ばれ、専門教育を受けて修士号を取得する。今後は、JDSで修士号を取得した卒業生を主な対象に、博士課程後期への受け入れも予定されている。

2年間の留学は、ジョセフさんにとって、単に学ぶという機会以上のものになったようだ。「先生方は学生にとっても協力的で、学生が行き詰まったときはしっかり導き、支えてくれます。先生方が、学生を信頼しているのだと感じました」と語るジョセフさん。「もし、

私がフィリピンで再び教育に関わることがあれば、同じように学生を支えられる学校を作っていきたいと思います」という。

日常生活についても、いささかの苦労はあったがおおむね問題はなかった。日本の印象を尋ねると、「日本では、道を聞くとわざわざ目的の地まで同行してくれる人がいたりして、誰もが親切ですよ。道では歩行者が優先で、皆がそのルールを守ることに驚きました。規律正しさと質の高いサービスは、日本の強みであり、あらゆる発展の基礎なのではないでしょうか」と話してくれた。論文の提出を終えた後は、富士山に登ったという。「あまり体を動かすタイプではないのですが、せっかくの機会なので挑戦してみました。良い思い出作りができたと思います。日本でお世話になった、あらゆる人に感謝しています。そう振り返るジョセフさんは9月に帰国し、再び地元の人々のために働く。

「私が日本で学んだことを、地元社会の人々と共有していかなければなりません。今すぐ問題が解決するということは決してありませんが、少しずつ知恵を共有していくことで、社会を変え、社会の問題を徐々に解決できるはずですよ」と語るジョセフさん。災害に強い地域社会を作るために、これから新たな挑戦だ。



ジョセフさんはフィリピンで、人々の連携で地域の災害対応力向上に取り組んできた

今年の夏はいくつもの台風が日本に上陸し、北日本を中心に大きな被害をもたらした。台風とは、おおむね東アジアから東南アジアにかけて発生する勢力の強い熱帯低気圧を指し、日本以外にも多くの国が影響を受けている。例えば、フィリピンは日本以上に頻繁に台風が上陸し、たびたび水害に悩まされている国だ。

今年の9月まで明治大学公共政策大学院に留学していたジョセフ・グアルディアリオ・ボルガト

リオさんは、フィリピン南部・ミンダナオ島北東部の南スリガオ州で、内務自治省の地方政府担当官として政策立案・運営などを担当している。休職して来日したジョセフさんの一番の関心事が、台風を含めてこの地域をしばしば襲う水害への対策だ。

この夏、ジョセフさんは、地元地域のケーススタディーを通して、いかに水害に強い地域社会を作るかを論じた論文で修士号を取得した。「私はもともと、教育分野からキャリアをスタートしました。その中で実感しているのが、学校教育だけでなく、家庭や地域

など、身近な場所を舞台にしたノンフォーマル教育の重要性です」と語るジョセフさん。帰国後、地元で災害対策への啓発活動を進めていけるように、研究にいそしんだ。「社会全体で知恵を共有することで、災害への対応能力が少しずつ上がっていくと考えていま



2015年3月に仙台で開かれた、第3回国連防災世界会議にも参加した(右から2人目がジョセフさん)

人材育成奨学計画 (JDS) 明治大学公共政策大学院



世界有数の災害発生国
地域から広げる防災の輪

未来のリーダー官僚を育てる

日常生活の基盤づくりから
非常時の対応、国の運営まで幅広く担う公務員。
優れた公務員の存在は地域社会を強靱にし、人々の生活の安定につながる。
そんな未来の国・地域のリーダー官僚を育成するためのプログラムが、
人材育成奨学計画 (JDS) だ。



先輩たちからの助言もあり、日本への留学を選んだジョセフさん。教授が学生を支える日本の大学は素晴らしいと話す